産業人クラブだより ―かけはし―

産業人烈伝

〝独創と融合〟企業理念に

西部技研・隈扶三郎社長 ①

当社は大学発ベンチャーのはしりで、1965年に九州大学工学部の研究室に勤務していた父の利実が設立した。西部技術研究所という当初の社名通り、自ら開発した技術を世間に問うことが事業の中心だった。現在はハニカム構造を持つローターを内蔵した、全熱交換器や除湿機が主力製品だ。海外生産や輸出を行い、世界中に顧客を持つ。

私が社長に就任したのは02年4月で今年が10年目にあたる。96年に父が病に倒れ、97年に亡くなった後は、母の智恵子（現相談役）が社長に就いた。その後、三男の私にたすきが渡された。

企業理念である「独創と融合」は96年に定めた。父は「独創」にこだわったが、私を含め経営陣で意見を集約し「融合」を加えた。存命中に理念を定めた意味は大きい。なぜならば創業者が掲げた理念だからだ。私は独創とは一個人からではなく、普通の人たちから生まれてくると考える。そして核となる技術が市場性と融合することで受け入れられるものだ。

だが父は基本的に〝ワンマン社長〟。自分がやりたいことをやるスタイルだった。製品の原理はすべて父が開発したものが基礎になっている。主力のハニカム全熱交換器も研究開発の試行錯誤の中から生まれたもの。現代の最大の課題といわれる、経済成長、エネルギー確保、環境保全のトリレンマ（三つの相克）も、当社の製品を使ってもらうことで克服できると信じている。父が開発した技術があることはラッキーだ。感謝している。

しかし社内で席を並べる機会はなかった。入社してからは、厳しい父親であり社長。反発心もあり、口をきくことは少なかった。

当社にとっては、母の存在も大きい。父は技術中心で財務面などでは母が力を発揮していた。私が入社後に父と衝突せずにやって来られたのは、母が緩衝材になってくれたおかげにほかならない。

また亡くなった後に従業員をつなぎとめ、社内を動揺させずに業務を続けられたのも母がいたためだ。父とともに創業者と言ってよい存在だと思う。

（福岡県古賀市）（全4回）

第34回経営者賞を受賞しスピーチする隈社長（左）と智恵子相談役

トップインタビュー

わずかな手持ち資金で独立

3次元抜き型 独自路線で存在感

ハガタ屋社長（四国産業人クラブ所属）喜岡（きおか）　達（たつる）氏に聞く

中小企業にとって〝独自路線〟は存在感を示すためにも大きなポイントだ。ハガタ屋（香川県東かがわ市、喜岡達社長、0879・25・3121）は封筒づくりなどに使う3次元の抜き型を手がける。自動車部品製造にも使われ、大手メーカーからの引き合いもある。一代で技術を築き上げた喜岡達社長に創業からの経緯などを聞いた。

（高松支局長・林武志）

◇

―15歳で修業に出られています。

「中学校を卒業後、叔父のところで手袋用の刃型をつくって〝でっち奉公〟をしていた。個人で創業したのが1967（昭42）12月。19歳の時に、喜岡抜型鉄工を白鳥町（現在の東かがわ市）で立ち上げた。当時は、20歳までに独立する、という強い意志を持っていた」

―その分の苦労も多かったですか。

「起業時はわずかな手持ち資金を持って、高松市の工具店に頼み込んで工具を融通してもらった。今の世の中、19歳で、身一つで独立してやろうと〝ギラギラ〟している人は少ないはずだ。時代は違うが、昔の方が野心家が多かったのは間違いないだろう」

―自動車部品向けに3次元抜き型を手がけたのが飛躍のきっかけです。

「封筒業界からの受注が軌道に乗った96年頃、立体的な抜き型を仕上げてほしい、と自動車メーカーから問い合わせがあり、苦労したが完成させることができた。バンパーなどのプラスチック成形品で使われている」

―炭素繊維強化プラスチック（CFRP）やスーパー繊維用などの抜き型は、環境面での対応を意識しています。

「自動車も電気自動車（EV）に代表されるように環境への対応が加速する。車体の徹底的な軽量化のためにCFRPの採用が自動車業界で一層進むだろう。手づくりの抜き型もスーパー繊維については重ねた30枚を打ち抜けるが、CFRPを抜けるのは1回。難しいが、今後の開発課題になる」

―ものづくり日本大賞や元気な中小300社なども受賞しました。

「確かにこれで3次元の刃物が世間に認められたが、あくまで通過点。まず平面のCFRPの板が抜けるようにならないと曲線状の板は打ち抜けない。これができた時が技術的な〝完結〟だ」

中学卒業後、手袋関連業で修業。67年喜岡抜型鉄工を19歳で設立、80年ハガタ屋に改称。07年第2回ものづくり日本大賞四国経済産業局長賞受賞。10年四国産業人クラブ入会。趣味はゴルフ。香川県出身、63歳。

小さくても本物

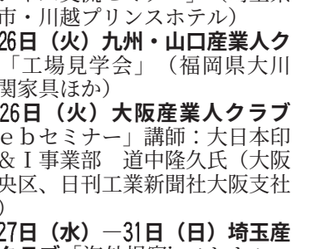
東京 アネティ 広報・PR事業拡充

「企業経営者のパートナーとして広報・PRをサポート」。アネティ（東京都品川区、仲村明子社長、03・5475・3488）は「人材」「教育」「福祉」「医療」などの分野に特化した広報・PR業務を提供している。

仲村社長は大手人材派遣会社での広報担当などのキャリアを経て、2006年に同社を設立。「インターネットの普及により企業のPRや情報発信のあり方が大きく変わった。それだけに企業にとって広報・PR機能の重要性が増している」と市場ニーズの高まりを感じている。「人」の人生の節目に関わる分野を対象にきめ細かいサービスを提供。さらに仏壇・仏具や葬祭といった「エンディングビジネス」業界にも拡大する。

主な広報・PR業務のメニューは企業ごとのニーズを基に用意。広報に関する簡易なコンサルティングのコースや、プレスリリースの作成・配信を代行するコース、スポット案件や部分サポートに対応するコースのほか、顧客の長期視点を踏まえて戦略的サポートを提供するトータルサポートコースなどがある。

また、教育・研修事業を積極的に展開している。企業向け広報・PR研修、リスクマネジメント研修に加えて、ビジネスモラル研修も開始した。若手から中堅・管理職までを対象にしたコンプライアンス教育プログラムだ。「今後はメニューをさらに増やして、全体に占める教育・研修事業売り上げを4割ほどに倍増させたい」と意欲をみせている。



仲村社長は教育事業も積極展開

トピックス

東京マネ研 嶋田会長が就任10年目

東京産業人クラブ・東東京マネジメント研究会（略称＝マネ研）の嶋田貫一会長（写真、高橋木箱製作所社長）が、2011年度で会長就任10年目を迎えた。82歳とは思えない若々しさと行動力、そして人望を請われて長期にわたりマネ研の活動をけん引してきた。自社の社長を兼務しながらの大役だが、この大きな節目で大学との産学交流などを計画。マネ研の魅力向上に強い意欲を示す。

嶋田会長が現職に就任した02年は、欧州単一通貨「ユーロ」の流通が始まり、日本・韓国共催のサッカー・ワールドカップが開かれた年。「拉致」「ムネオハウス」「ベッカム様」などが流行語となった。マネ研は今年度が発足18年目であり、嶋田会長はその過半を会のトップとして尽力したことになる。

マネ研会員は現在40人。東京・下町の中堅・中小企業を中心に構成し、クレーンやプレス機、ポンプ、油・空圧機器、バリ取り装置など多種多様な企業が参加している。今年度の活動は、従来の工場見学会やゼミナール、ゴルフ大会などのほか、13年春に東京都葛飾区に新キャンパスを開設する東京理科大学や、城北産業人クラブとの交流も計画している。

「技術開発力を高めたり、企業に刺激を与えるためにも、中小企業が大学や他の異業種交流会に近づいていくことは大事だ」。嶋田会長の活動意欲は全く衰えない。

節電対策でセミ

東京産業人クラブ・東京産学交流会

東京産業人クラブ・東京産学交流会（渡辺佳英会長＝大崎電気工業会長）は6月24日、6月例会として「緊急節電セミナー」を東京都大田区の三井ガーデンホテル蒲田で開いた。企業の総務担当者ら約10人が参加。

「今すぐできる節電対策」と題し、ホンダOBで省エネアドバイザーの馬場喬氏を講師に招いた。

馬場氏は60社を超える中小企業を指導してきた経験を基に、「エアブローの空気は無料と錯覚し、過剰に消費してしまいがち」と節電対策の見落としやすいポイントを指摘した。「多少のエア漏れはやむを得ない、と改善をあきらめてはいけない。1立方㍍の圧縮エアを作るのに2―3円の経費がかかっている。特に自動ドレン部からエア漏れを起こしている工場をけっこう見かける」と、この機会に配管設備の点検を徹底するよう求めた。さらに漏れを見つける効果的な方法について「工場が休みの日にエアコンプレッサーだけ稼働させてみると、シューシュー音がするので分かる」と述べた。

今夏、最大使用電力の15％抑制が急務となる中、参加者は熱心に聞き入っていた。

「今すぐできる節電対策」で講演する馬場氏

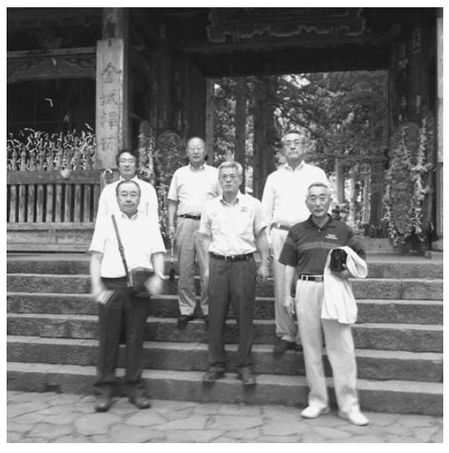
会員間の連携、協力、より深く

多摩産業人クラブ 総会と工場見学会

多摩産業人クラブ（臼井努会長＝京西テクノス社長）は6月20日に、東京都多摩市の京西テクノス本社で2011年度の定時総会（写真上）を開いた。冒頭、臼井会長は「東日本大震災で外部環境は激変したが、モノづくり関連企業が集まる多摩産業人クラブを活用し、会員間の連携、協力、相互理解を深めよう」とあいさつ。10年度の活動実績と収支決算を報告した後、11年度の事業計画案、収支予算案を審議し、いずれも原案通り承認された。

続いて京西テクノスの工場見学会（写真下）では、医療機器や電子機器の修理や検査、検証の現場を視察した。

「コンピューター断層撮影装置（CT）に使われるX線管球は、直ったかどうかを実機で検証する」など、徹底した検査、検証体制に会員はしきりに感心していた。



チャリティー親睦ゴルフ大会

埼玉産業人クラブ

前田氏が優勝

埼玉産業人クラブ（増田文治会長＝マスダック社長）は6月15日、埼玉県入間市の武蔵カントリークラブ豊岡コースでチャリティー親睦ゴルフ大会（写真）を開いた。会員ら22人が参加し、自慢の腕を競い合った。結果は、ハーベス（さいたま市浦和区）の前田知憲社長がネット71・8、グロス79で優勝。前田社長は「競技同伴者など好条件の下、良いスコアを出せた」と満足そうに振り返った。

雨の多い季節ながら、当日の天気は爽やかな晴れ。スタート前、増田会長は「天候に恵まれて良かった。存分に力を発揮しましょう」と参加者に呼びかけた。

2位にフロロコート（埼玉県川越市）の諏訪部喜義相談役、3位に日本メタルガスケット（埼玉県熊谷市）の植田耕作会長が入賞。1位の前田社長には、トロフィーと賞状に加え自転車とセレクトギフトカタログが贈呈された。

今回は東日本大震災被災地のためのチャリティー大会。パーやバーディーなど1ホールの成績ごとに定額を設定し、義援金として参加者から募った。集まった義援金は埼玉県熊谷市の植田耕作会長が入賞。1位の前田社長には、トロフィーと賞状に加え自転車とセレクトギフトカタログが贈呈された。

第70回ゴルフ大会

大阪産業人クラブ・ゴルフ部会

大木さん初優勝

大阪産業人クラブ・ゴルフ部会（田中修二部会長＝オージック会長）は6月9日、高知県香南市の土佐カントリークラブで第70回ゴルフ大会を開催した。優勝したのは大木たかこさん（写真右）で、スコアはグロス93、ネット63。大木さんは「長年大阪産業人クラブに参加しているけど、優勝できてうれしい」とトロフィーを抱えて初優勝の感激のスピーチをした。

また70回記念大会で61回から69回までの優勝・準優勝者で競うグランドチャンピオンについては、MURATA（大阪市西区）の村田奈々子社長がグロス88、ネット67で獲得した。

併せて開いた交流会では、地元の四国産業人クラブの西山彰一会長（宇治電化学工業社長）夫妻も参加し、大阪からの参加者16人との交流を深めた。

南魚沼市・雲洞庵 史跡見学会実施

新潟産業人クラブ

新潟産業人クラブ（佐藤十九一会長＝クボ製作所社長）は6月16日、新潟県魚沼地方の史跡見学会を実施した。魚沼市の西福寺開山堂では石川雲蝶の美しい彫刻に目を見張った。また、南魚沼市の雲洞庵（写真）では観光ガイドの塩原進氏の詳しい説明を聞きながら大河ドラマ「天地人」に登場する直江兼続と上杉景勝の2人が幼少期に学んだ部屋などを見学。1300年の古刹の1万坪（3万3000平方㍍）の境内でゆっくりと歴史に浸った。宝物殿には義経と弁慶の大般若写経や楠木正成の遺書など書状が多くあり、谷地田茂明ヤチダ社長は「見ていたら時空のつながりを覚えた」と感想をもらした。

宿泊先の六日町温泉「龍言」は魚沼出身の金究武正山勝電子工業社長の紹介で、庄屋や豪農の館を移築した建物で温泉と魚沼料理を満喫した。「震災後せわしく動き、ゆったりできた久々の至福の時だった」（渕岡茂フチオカ社長）との声が聞かれた。

翌日の17日は魚沼市の越後ゴルフ倶楽部で春季ゴルフコンペを行い、12人が参加して熱戦を繰り広げた。優勝者は新潟工科大学産学交流会の井田増夫事務局長（ネット70・6、グロス85）で、新潟産業人クラブゴルフ会会長の関正広セキサーマル社長から表彰された。

モノづくりや人材育成を強化

四国産業人クラブ 総会と講演会開催

四国産業人クラブ（西山彰一会長＝宇治電化学工業社長）は6月17日、高松市のリーガホテルゼスト高松で2011年度の定時総会を開いた。四国4県の経営者らで組織する四国産業人クラブは、10年12月に中国四国産業人クラブから独立する形で発足。この日は10年度の会計報告や11年度の事業計画案などが示された。

西山会長は「四国産業人クラブにとって、今年が実質的なスタートの年。会員企業が相互交流を深め、モノづくりや人材育成に対する意識を高めたい」とあいさつした。

総会後、加藤元彦四国経済産業局長が「四国経済の役割と挑戦」をテーマに講演した（写真）。加藤局長は「四国にはグローバルなニッチトップ企業が多い。観光戦略でも四国ブランドが確立されている」と述べた。このほか、東日本大震災の四国経済への影響、四国での先行的なビジネス事例などを紹介した。会員らは真剣に耳を傾けていた。

懇親会は三木啓司産業技術総合研究所四国センター所長による乾杯で始まり、和やかな雰囲気の中で情報交換するなど、参加者は交流を深めた。

7―8月の予定

【7　月】

◇**5日（火）茨城産業人クラブ定時総会・記念講演会**「今後の成長戦略」講師：経済産業省関東経済産業局長　照井恵光氏（水戸市、水戸京成ホテル）

◇**7日（木）長野産業人クラブ**「2011年度定時総会」（長野市、ホテル国際21）

◇**7日（木）埼玉産業人クラブ・埼玉ビジネス研究会**「じっくり訪問シリーズ第14弾」（埼玉県所沢市、マスダック）

◇**8日（金）山形産業人クラブ**「2011年度定時総会・講演会」、講演：「東日本大震災～モノづくり産業の行方」柴田孝山形大学産学連携教授（山形市、パレスグランデール）

◇**14日（木）群馬産業人クラブ**「2011年度第48回定時総会」（前橋市、前橋商工会議所）

◇**14日（木）福島産業人クラブ**「2011年度定時総会・記念講演会」講師：柴田孝山形大学産学連携教授（福島市、福島ビューホテル）

◇**14日（木）大阪産業人クラブ女性部会・中国四国産業人クラブ**「京都鴨川の納涼床交流会」（京都市中京区、金茶寮）

◇**15日（金）新潟産業人クラブ**「工場見学会」（新潟県阿賀野市、THK新潟）

◇**15日（金）首都圏産業人クラブ**「チャリティーゴルフ大会」（東京都青梅市、東京バーディクラブ）

◇**22日（金）埼玉産業人クラブ・NITEC埼玉産学交流会**「7月納涼例会」（東京都港区、牡丹）

◇**22日（金）東京産学交流会（サザンクロス）・7月定例会**「震災の影響と製造業の下期景気見通し」講師：日本総合研究所調査部　杏村秀樹主任研究員（東京都大田区、三井ガーデンホテル蒲田）

◇**22日（金）―23日（土）中国四国産業人クラブ**「2011年度第1回四国別格20カ寺参拝」（徳島市）

◇**25日（月）埼玉産業人クラブ・川越商工会議所主催**「埼玉県西部地区ビジネス交流セミナー」（埼玉県川越市・川越プリンスホテル）

◇**26日（火）九州・山口産業人クラブ**「工場見学会」（福岡県大川市、関家具ほか）

◇**26日（火）大阪産業人クラブ**「webセミナー」講師：大日本印刷C&I事業部　道中隆久氏（大阪市中央区、日刊工業新聞社大阪支社10階）

◇**27日（水）―31日（日）埼玉産業人クラブ**「海外視察inベトナム」（伊藤鋳造鉄工所、アーネストの現地工場視察など）

◇**27日（水）―28日（木）名古屋産業人クラブ・岐阜産業人クラブ**「2011産業人カップゴルフ大会／前夜祭・大会」（長野県木曽町、木曽御岳カントリークラブ）

◇**29日（金）いわき産業人クラブ**「2011年度定時総会・記念講演会」講師：柴田孝山形大学産学連携教授（福島県いわき市、パレスいわや）

【8　月】

◇**2日（火）東京産業人クラブ女性部会**「8月例会」（東京都千代田区、KKRホテル東京）

◇**2日（火）―3日（水）新潟産業人クラブ**「長岡大花火大会」（新潟県長岡市）

◇**3日（水）埼玉産業人クラブ**「清水勇人さいたま市長を囲む懇親会」（さいたま市浦和区、うらわ高砂）

◇**5日（金）埼玉産業人クラブ・NITEC埼玉産学交流会**「産学連携機関合同　産学連携セミナーIN　日本工業大学」（埼玉県宮代町・日本工業大学）

◇**10日（水）埼玉産業人クラブ**「分科会」（さいたま市浦和区、日刊工業新聞社さいたま総局）

◇**22日（日）中国四国産業人クラブ**「内子文楽鑑賞への誘い」（愛媛県内子町、内子座）

◇**26日（金）埼玉産業人クラブ**「ものづくり企業経営革新in川口」（埼玉県川口市・川口商工会議所）

◇**29日（月）日本産業人クラブ連合会**「2011年度定時総会」（東京都千代田区、ホテルグランドパレス）

◇**29日（月）名古屋産業人クラブ**「在名古屋各県事務所、学習会&懇親会」（名古屋市東区、日刊工業新聞社名古屋支社）

新入会員

新潟産業人クラブ

▽**佐藤　洋氏**　大同印刷社長（新潟市西区善久750の1、025・377・1141、チラシ、ポスター、カタログ、パンフレット、ラベル、シール制作・印刷）

埼玉産業人クラブ

▽**渡辺　和久氏**　ワックデータサービス社長（埼玉県富士見市西みずほ台2の12の8、049・251・7777、繊維機械関連装置、取付具、付属品などの製造）

名古屋産業人クラブ

▽**永津　弘喜氏**　アイシー社長（名古屋市名東区平和が丘5の57、052・778・0700、液体シール、表面処理製品の販売）

岐阜産業人クラブ

▽**西垣　功一氏**　西垣ポンプ製造社長（岐阜県笠松町美笠通3の12の1、058・388・3531、ポンプ製造）